

# 石川県の伝統工芸品への復興支援と経済的发展 ～中学生・高校生の伝統工芸品への認識向上に向けて～

団体名● ITCSP (ISHIKAWA Traditional Crafts Spread Project)

代表者名● 西村 梓 (経済学部・地域システム学科・1年)

## はじめに

ITCSPは本年度5月に結成された、地域システム学科1期生である現1年生からなる団体である。活動の目的として、若い世代、特に中学生・高校生をターゲットとした伝統工芸品への興味関心の向上と販売の促進、そして令和6年能登半島地震で被災した伝統工芸に携わる地元事業者への復興支援を掲げている。

## 活動内容

今年度は以上の活動を本格的に開始する前の現状・課題把握段階と位置づけ、伝統工芸品の展示および制作現場の現状を把握するための視察、さらに中学生・高校生の伝統工芸品に対する関心を把握するための質問紙調査を行った。具体的な活動は以下のとおりである。

- ① 本学オープンキャンパス・地域システム学科説明会でのアンケート調査の実施(7月)
- ② 伝統工芸品の展示施設および牛首紬・金沢箔・加賀友禅の制作現場への視察(芝浦工業大学との共同実施、9月)
- ③ 伝統工芸品の知名度を高める取り組み「石川県×ラブライブ!蓮ノ空女学院スクールアイドルクラブ」のイベント・展示視察(12月)
- ④ 星稜中学校・高等学校を対象とした質問紙調査の実施(12～1月)

## 成果、結果の考察

星稜中学・高等学校への質問紙調査では、伝統工芸品に「あまり関心がない」「全く関心がない」との回答の割合が半数以上を占め、若い世代の伝統工芸品に対する関心は低い傾向にあることがうかがえた。また回答者の半数以上が自発的な伝統工芸品の制作体験の経験は「ない」と回答しており、体験機会が少ないということが伝統工芸品への関心の低さの原因のひとつではないかと推測された。これらをふまえて、若い世代に伝統工芸品への関心をもってもらうには、学校の課外授業以外でも制作体験等の機会を増やしていくことが重要であると考えた。これまでに知っていた伝統工芸について尋ねたところ、金沢市が生産量全国1位を誇る金沢箔の認知度が最も高

く、輪島塗、加賀友禅、九谷焼と続いた。一方で上位4品と同様に国指定伝統的工芸品である牛首紬の知名度は3.5%と非常に低い結果となった。この結果をふまえ、今後は石川県の伝統工芸品全体のPR活動や、県内の中学生・高校生を対象とした調査により力を入れていきたいと考えている。

伝統工芸品の生産現場への視察からは、伝統工芸品全体における担い手が不足していることや、牛首紬においては原材料である玉繭を中国から多く輸入しており円安による物価高騰の影響を受けていること、着物の中ではそれほど高価ではないが手を出しにくい金額であること、着物より洋服が主流になったことで現代の流行と相いれないことなど、様々な課題を抱えていることが明らかとなった。しかし、制作が多様な絵付けのデザインやこだわりの制作方法を取り入れており、素材の特徴を活かした新たな商品の開発をおこなうとともに、海外の人気ハイブランドや人気コーヒーチェーン店であるスターバックスとのコラボ作品や商品の制作等をおこなっているという前向きな現状も明らかになった。



(写真：左) 箔一箔巧館

(撮影：経済学部地域システム学科1年坪田愛菜)

(写真：右) 加賀友禅会館コラボ展示

(撮影：経済学部地域システム学科1年中川百華)

## 今後の課題、展望

上記の調査をふまえ、来年度以降の活動として下記を予定している。

- ① SNS(Instagram)での石川県の伝統工芸品の知名度・魅力度向上に向けた情報発信
- ② 牛首紬を対象としたPR活動、制作現場の視察
- ③ 質問紙調査において関心の高かった能登地方(特に奥能登地域)への、活動の拡大

活動回数：20回程度

延べ参加人数：7名